

## V307a X線分光撮像衛星 XRISM の科学運用の現状

小川翔司 (ISAS/JAXA), 寺田幸功, 田代信, (埼玉大, JAXA), 高橋弘充, 水野恒史, 深沢泰司, 阪本菜月 (広島大), 信川正順 (奈良教育大), 宇野伸一郎 (日本福祉大), 中澤知洋, 大宮 悠希, 大熊佳吾 (名古屋大), 内山秀樹 (静岡大), 久保田あや (芝浦工業大), 勝田哲, 塩入匠 (埼玉大), 寺島雄一, 志達めぐみ, 新居田祐基 (愛媛大), 山内茂雄, 太田直美, 白木天音, 鈴木那梨 (奈良女子大), 北口貴雄, 山田智史 (理化学研究所), 坪井陽子, 米山友景, 根本登 (中央大), 内田悠介 (東京理科大), 江口智士 (熊本学園大), 谷本敦 (鹿児島大), 善本真梨那 (大阪大), 海老沢研, 渡辺伸, 飯塚亮, 林克洋, 内田和海, 金丸善朗, 星野晶夫, 吉田鉄生 (ISAS/JAXA), Matt Holland, Tahir Yaqoob, Chris Baluta (NASA), Michael Loewenstein (NASA, University of Maryland), Eric Miller (Massachusetts Institute of Technology)

X線分光撮像衛星 (XRISM) は2023年9月7日に打ち上げられ、現在は打ち上げ後の衛星搭載機器の機能確認等を実施する初期機能確認運用期間中である。我々科学運用チームは、バス系やミッション機器の開発・運用チームとは独立に組織され、観測天体の公募や観測スケジューリング、観測後のデータ処理、検出器校正データの最適化など、XRISMが科学成果を最大限に引き出すための科学運用に向けて、周到的な準備を行ってきた。現在の主な活動は、軌道上データを用いた高次データ処理およびアーカイブ処理とその結果の検証、即時解析データの検出器チームへの配布、さらには公募観測に向けたヘルプデスクの立ち上げ、観測提案システムの検証試験などである。これらの活動は、衛星運用および検出器開発チーム、NASA/GSFCやESACの地上ソフトウェアチームやユーザーサポートメンバーと連携して進めている。本講演ではXRISMの科学運用について、打ち上げ後から初期機能確認運用期間のステータスをまとめるとともに、今後の定常運用段階におけるプランを報告する。